

4 きょう土の^{でんとう}伝統・文化と^{せんじん}先人たち

1 残^{のこ}したいもの 伝^{つた}えたいもの

つかむ！

青森県には、どのような文化ざいや年中行事が残っているのでしょうか。

古くから残るもの

青森県には、古くからある^{たてもの}建物や^{こうげい}工芸品などの文化ざい、祭りなどの^{ねんちゅうぎょう}年中行事がたくさんあります。



「見たことや聞いたことがあるものもたくさんあるね。」



1 ^{さんないまるやまいせきしゆつどひん}三内丸山遺跡出土品（青森市）



2 青森ねぶた（青森市）



3 ^{ひろさきじょうてんしゆ}弘前城天守（弘前市）



4 弘前ねぶた（弘前市）

ことば

文化ざい

日本の長いれきしの中で作りだされ、今日までまもり伝えられてきた建物や工芸品などのこと。

年中行事

毎年決まった時期に行われる祭りや行事のこと。



「いつからあるのかな。もっとくわしく調べてみたいな。」



「きょう味をもったものを選んで調べてみましょう。」

学習問題

青森県の文化ざいや年中行事には、どのようなものがあるでしょうか。一つ選んで調べてみましょう。

- ・いつからあるのか。
- ・どのような願ねがいがこめられているか。
- ・どのように受けつがれてきたか。

➡ インターネットやパンフレットなどの資料しりょうから調べ、新聞やポスター、年表ねんびょうなどにまとめましょう。



5 八戸三社大祭 (八戸市)



6 谷掌土偶 (八戸市 是川遺跡)



7 旧笠石家住宅 (十和田市)



8 八戸えんぶり (八戸市)

～豆知識～ 青森市の年中行事「青森ねぶた祭」は、秋田県秋田市の「秋田竿燈まつり」、宮城県仙台市の「仙台七夕まつり」とあわせて“東北三大祭り”ともよばれています。



1 昔の三本木原（想像図）



2 今の十和田市

2 三本木原に水を引く

つかむ！

わたしたちの住む十和田市は、どのように変わったのでしょうか。

ことば

三本木原

十和田市・六戸町・東北町などに広がる、川ぞいの低い土地よりも一たん高い平地を「三本木原」といいます。地図帳で、その広がりを見つけてみましょう。

はやとさんたちは、先生が見せてくださった2まいの絵と写真を見て、気づいたことを話し合いました。



「昔は、草も木も少ししかはえていないよ。人の住む家も見当たらないね。」



「昔の三本木原には、田も畑もつくれそうにないね。」



「今の十和田市には、田がたくさんあるね。どのようにして、今のようになすがたになったのかな。」



「田や畑をつくれるようになったのは、どうしてなのかな。」



たちばな なんけい

橋 南谿が見た三本木原

江戸時代の医者、橋南谿は旅の途中、三本木原をおとすれました。その時の様子をのちに「東遊記」という本の中で下のように入りました。

七戸の近くに三本木台というあれ地がある。ただ平らな原野で、あたりを見回しても何もなし。この原は、歩くと東西はおよそ二日かかり、南北は半日ほどのきよりだという。その間に人の住んでいる家はなく、木も一本も見えない。まったく「無益(役立たず)のあれ地」である。

先生はさらに、2つのグラフを見せてくださいました。



「米の収穫量しゅうかくりょうや戸数こすう(家の数)もいっ
きにふえているね。」



「この何十年かの中に何が起こった
のかな。」



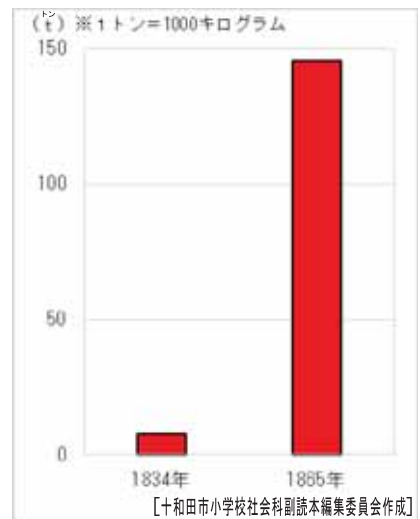
「下の年表を調べてみましょう。手
がかりはありませんか。」



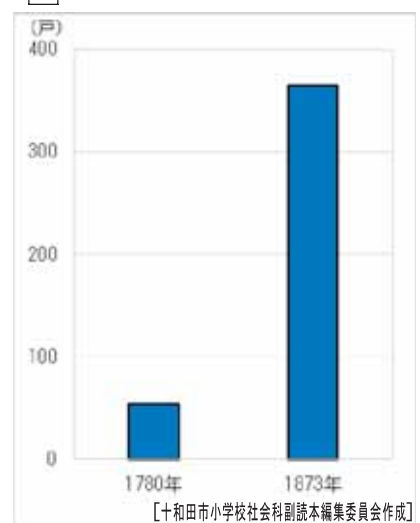
「_____年に、稲生川いなおいがわが完成して
いるよ。昔からあったわけではない
んだね。」



「稲生川ができたあと、_____と
いうところで初めて米がとれている
ね。」



3 三本木村の石高の変化



4 三本木村の戸数の変化

年	できごと
1647	「三本木」という地名が初めて文書に登場する。
1780	三本木村の戸数(家の数) 54 戸
1786	江戸時代の医者、橋南谿が三本木原に来る。 (のちに東遊記で三本木原について記す。)
1855	新渡戸 傳 <small>に と べつとう</small> が三本木原開拓の許しを南部藩 <small>かいたく</small> の殿様 <small>ゆる なん ぶ はん とのさま</small> にもらい、 用水路(稲生川)をつくる工事に取りかかる。
1859	稲生川が完成する。
1860	三本木村の初田 <small>はつた</small> で米 45 俵 <small>ひょう</small> を収穫 <small>しゅうかく</small> する。

5 年表①「三本木原のうつりかわり」

～豆知識～ 三本木の人々に古くから伝わる盆歌ぼんうたの中でも、三本木原は「寒い寒い、
三本木平たいコ寒い、二度と行くでない三本木平コさ」と歌われています。

ことば

用水路

人々の生活や、農業・工業
などに使うための水を流すた
めに、人がつくった川のこと。
水が少ない地いきでは、遠
くから水を引かなければなり
ません。用水路をつくるには、
しっかりと計画と、地い
きの人々の協力きょうりょくが大切
です。



6 稲生川

つかむ！

三本木原と稲生川には、どのようなかわりがあるのでしょうか。

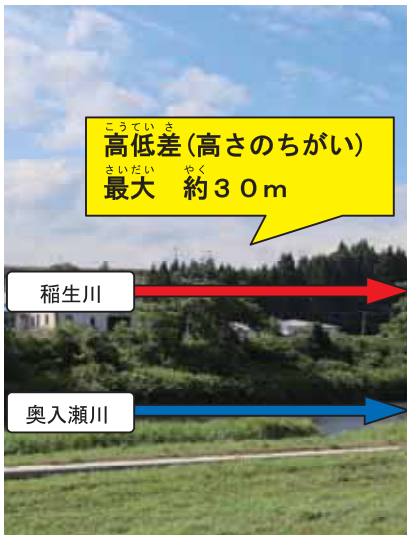
ことば

とうこうせん
等高線

かいめん
海面の高さを0mとして、
同じ高さの場所を線で結び、
それを地図上で上から見たもの
が等高線です。

だんめんず
断面図

その土地を、直線にそって
たち切って、横から見た図の
ことを断面図といいます。

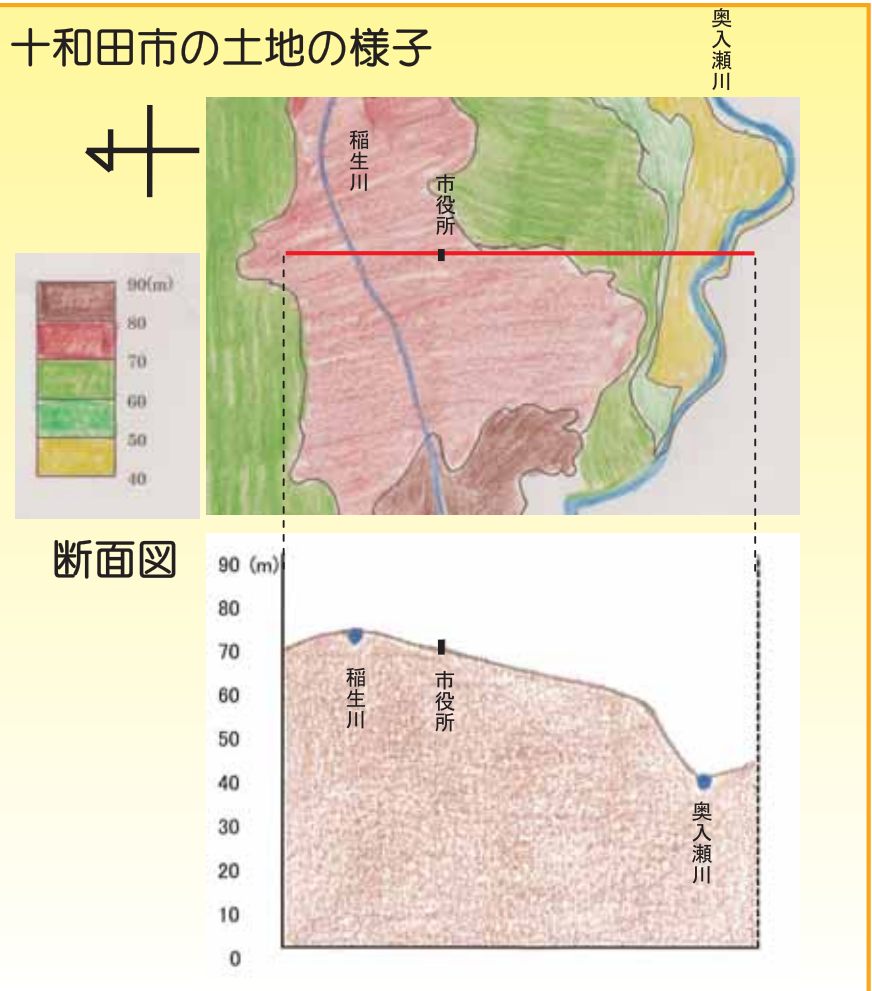


1 稲生川と奥入瀬川の高さのちがい

三本木原と稲生川

はやとさんたちは、三本木原と稲生川が深くかかっていることに気づき、下の地図を見て、さらに調べてみました。

十和田市の土地の様子



「近くを流れる奥入瀬川は稲生川のずっと低いところを流れているよ。どうやって人の手で稲生川を高い所に流すことができたのかな。」

みんなで話し合い、これから稲生川についてくわしく調べることにしました。

学習問題

どのようにして稲生川はつくられたのでしょうか。

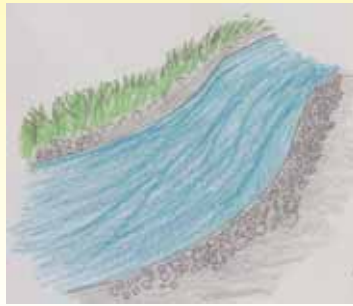
予想・計画

学習問題について予想し、調べる計画を立てましょう。

予想を出し合い、調べる計画を立てよう
はやとさんたちは、学習問題について
予想を出し合い、調べる計画を立てるこ
とにしました。

はやとさんの考え

「近くを流れる奥入瀬川から水を引いた
と思う。でもどうやって高い所に水を流
せたのかな。」



あおいさんの考え

「何もない所に川をつくるって大変そ
う。穴をほったり、うめたりしなければ
ならないよね。」



みおさんの考え

「大きな機械がない時代だから、工事は
きっとすべて手作業だよ。工事をした
人たちは、大変だったと思うな。」



わたしの考え

調べること

- ・ 稻生川をつくった人。
- ・ どうやって水を引いたのか。
- ・ 工事の道具や方法。
- ・ 稻生川によって、人々のくらしはどのように変わったか。

調べ方

- ・ 資料や本を使って調べる。
- ・ 稻生川に見学に行く。
- ・ 稻生川にくわしい方から話を聞く。

まとめ方

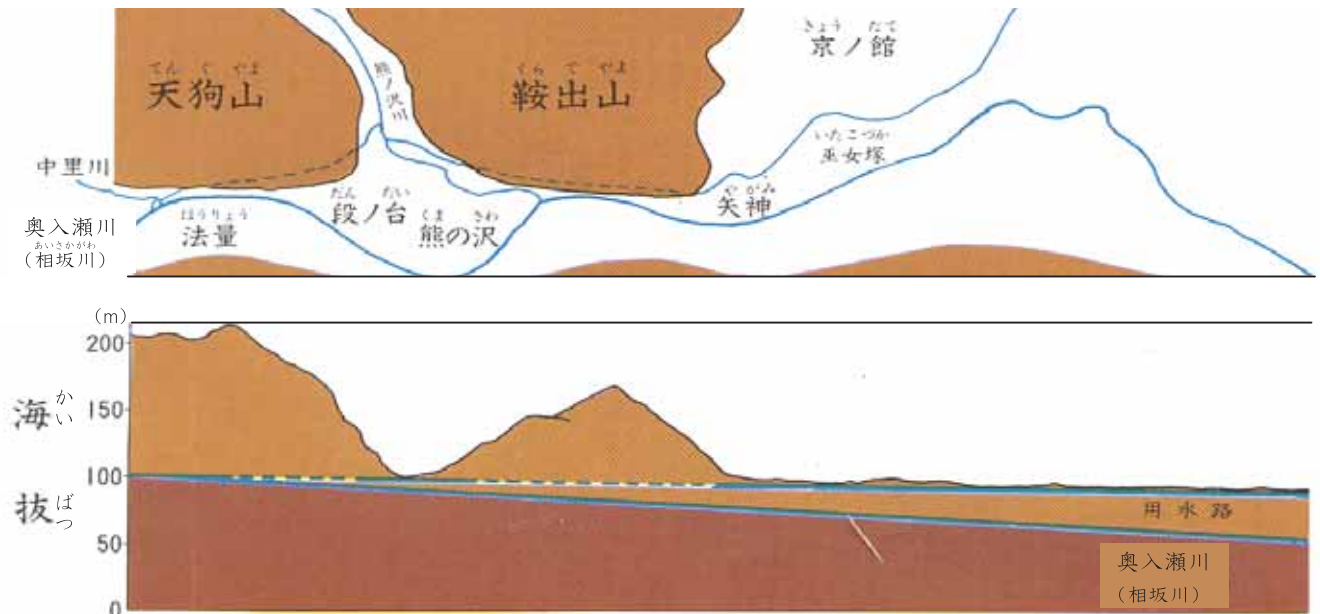
- ・ 紙しばいやポスター、新聞などにまとめる。

調べる

稲生川は、だれが、どのようにつくったのでしょうか。

新渡戸傳と稲生川

はやとさんたちは、まず稲生川の水がどこから来ているのかを、資料から調べることにしました。



1 稲生川とまわりの土地の高さ



「やっぱり奥入瀬川から水を引いたんだね。」



「図を見ると、稲生川は、二つの山の中を通っているよ。トンネルかな。」



「機械がない時代にトンネルを掘るって、大変だと思うな。」

はやとさんたちは、稲生川をつくるために、トンネルを掘るなど大変な工事をしていたことがわかりました。また、年表から、稲生川をつくったのは、新渡戸傳という人物であることを調べました。先生に伝えると、新渡戸傳についての資料を見せてくださいました。



新渡戸傳について

1793年、現在の岩手県花巻市に武士の子として生まれました。

27歳のとき、商人となり、十和田湖近くの木を売って、はんじょうしました。

45歳のときにふたたび武士となり、岩手県で新しい水田づくりに取り組み、成功させました。

62歳のとき、三本木原の開拓を南部藩に願い出ます。

三本木原は十和田湖や八甲田山がふん火した時の火山灰が積もってできた台地です。江戸時代には、田はほとんどなく、草や木があまり育たなかったことから、旅人に“無益のあれ地”とよばれるほどでした。

そんな三本木原に住む人々の「水を引いて、田をつくり、米を食べたい」という願いをうけ、また、傳自身の「この地に水を引き、実りある豊かな土地にしたい」という思いから、電気も大きな機械もない江戸時代の1855年に稲生川をつくる工事に取りかかったのです。

ごどば

台地

まわりよりも少し高い平らな土地のこと。三本木原も昔は「三本木原台地」とよばれていましたが、今は「三本木原」によび方がそろえられ、地図帳にもその名前でのっています。

稲生川をつくることをお殿様に願い出たときの資料もありますよ。



「三本木原に住んでいたわけではないのに、人々のためにがんばってくれたんだ。」

新渡戸傳の「三本木原開拓願」

三本木原は果てしない荒野で、広大な田畑になるような所ですが、水がないため、むなしく野草がしげる土地となっているのは残念なことです。

わたしは前に仕事でこの地をおとずれた時、この場所を見て回りましたが、穴堰(トンネル)を掘らなければ、とても水を引くことはできません。

七戸通りの法量村矢神という所から同じ通りの深持村熊ノ沢という所まで五百六十間(約1キロメートル)の穴堰を掘りぬき、奥入瀬川の水を入れ…

およそ450トンがとれそうな田が開ける見こみです。



「人々の願いを聞き、水さえあれば三本木原にも田はつくれると思ったんだね。」

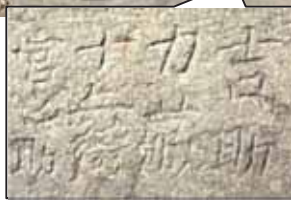


「どんな道具を使って工事をしたのか、調べてみたいな。」

はやとさんたちは、次の時間に、どのようにしておずかしい工事を行ったのかを調べることにしました。

調べる

どのようにして、むずかしい工事は進められたのでしょうか。



1 山神の石碑

「南部土方衆」と稲生川工事

授業のはじめ、先生が、今も稲生川ぞいに残っているという石碑の写真を見せてくださいました。

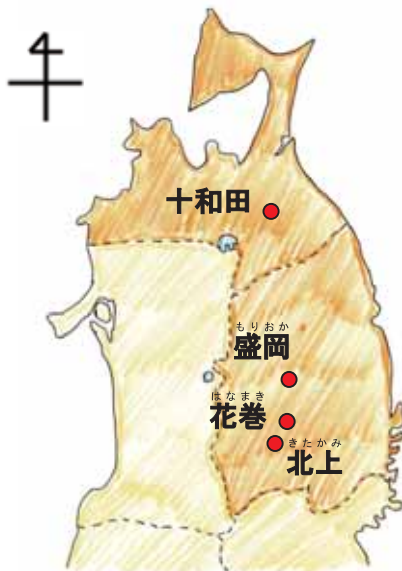


「この石碑は、稲生川工事のど中、トンネル工事の安全を願ってたてられたものです。」



「よく見ると、大きな字の下に、人の名前が書いてあるよ。何をした人たちなんだろう。」

はやとさんたちは、この石碑について、稲生川にくわしい人にお話を聞いてみました。



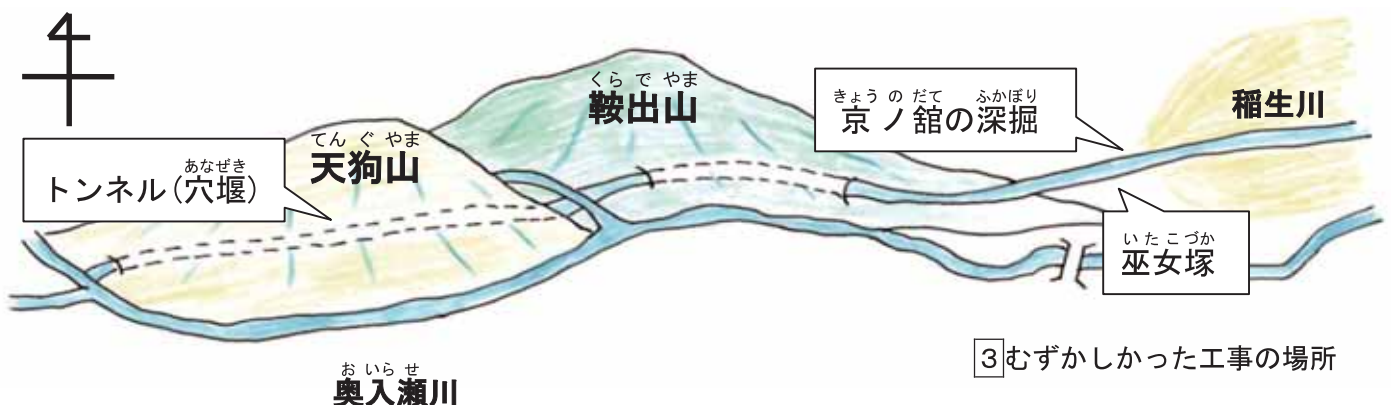
2 北東北の地図



稲生川にくわしい樋口さんの話

山神の石碑に名前が刻まれた17人は、新渡戸傳が計画した稲生川工事を実際に進めた人たちです。この17人とその仲間を「南部土方衆」といいます。

「南部土方衆」は、今の岩手県花巻市や北上市からやってきた、用水路づくりのすぐれた技術者集団でした。稲生川は、この人たちのはたらきがなければ、つくることはできなかったでしょう。



3 むずかしかった工事の場所

樋口さんはさらに、当時の稲生川工事についても、くわしくお話してくださいました。

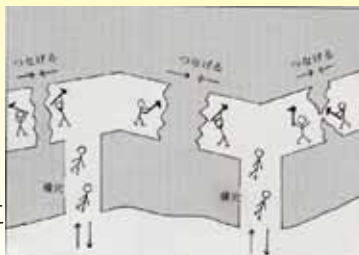
工事に使われた道具



工事をした人たちの気持ち、完成した時の三本木原の人たちの気持ちを考え、話し合ってみましょう。

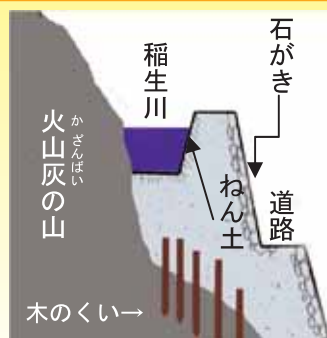


トンネルは、10か所ぐらいの横穴を掘るグループを決め、それぞれのグループごとに掘っていきました。まず、山のおくに向かって穴を掘りました。次に、そこから両がわに、方向やきより、かたむきをはかりながら掘り進みました。そして、グループごとのトンネルをつなげて完成させました。こうすると、山の両はじから掘り進めるよりもトンネルがずれることも少なくなり、しかも早く完成させることができます。横穴は、掘った土を運び出したり、新しい空気を入れたり、食料を運んだりすることにも使われました。



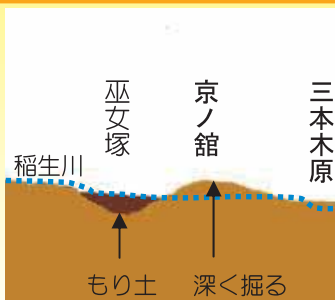
トンネルの掘り方

巫女塚は、まわりの土地よりも低いために、大量の土を入れて平らにしなくてはなりません。さらに、山にそって稲生川をつくることにしたので、水のいきおいで稲生川がくずれないように、木のくいを打ち、ねん土や石がきで強くしたと考えられています。



巫女塚の断面図

京ノ館は、まわりの土地よりも高いために、巫女塚とは反対に、水がうまく流れるようにかたむきをつけながら、深く掘っていきました。昔の武士の家（館）のまわりに掘られた「ほり」を利用して、稲生川の工事を進めていきました。



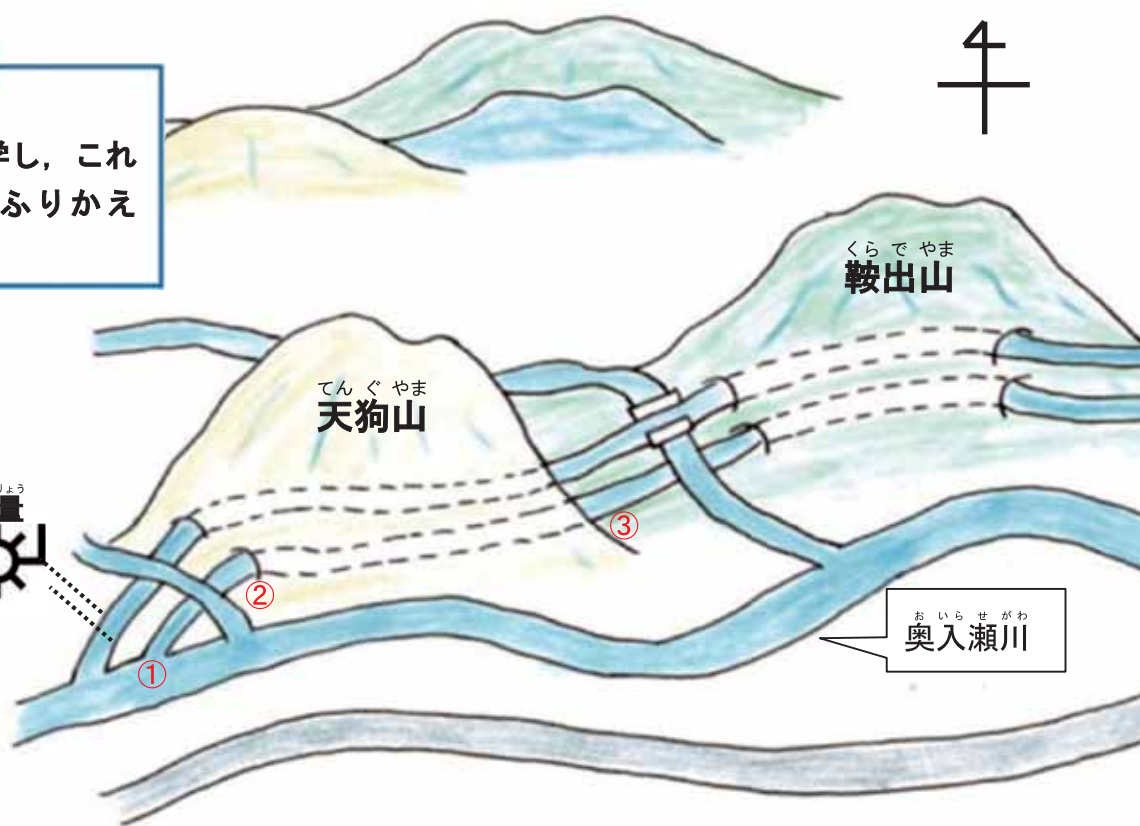
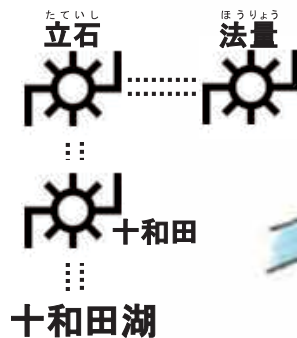
巫女塚・京ノ館付近の土地の様子



4 三本木原まで水が流れたことを喜ぶ人々（稲生川土地改良区壁画）

調べる 🔍

いなおいがわ
稲生川を見学し、これまでの学習をふりかえりましょう。



① 取水口



② 天狗山トンネル入口



③ 天狗山トンネル出口

稲生川の見学

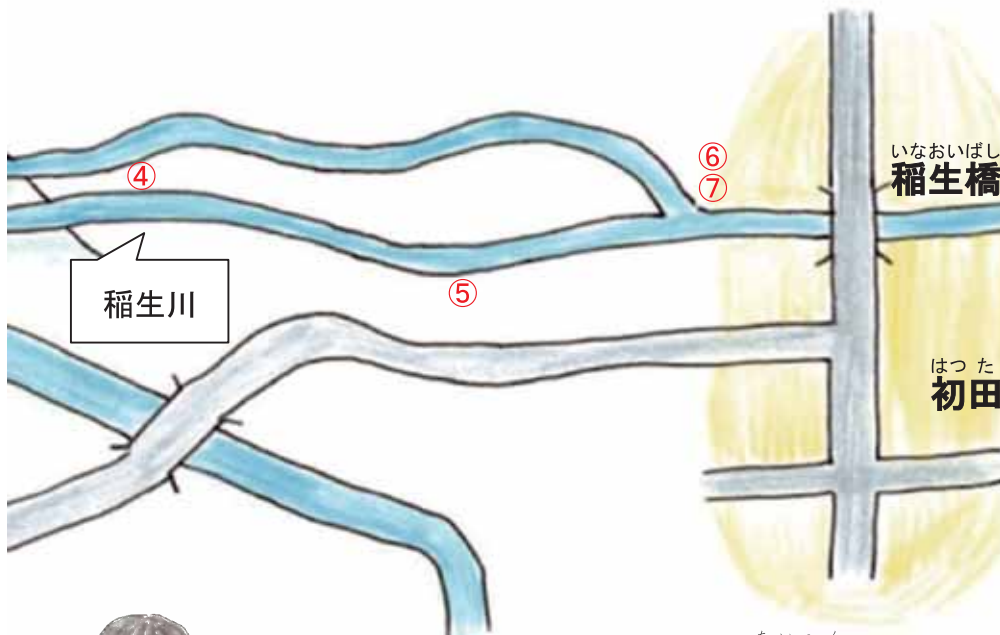
はやとさんたちは、これまで学習してきたことをたしかめるために、稲生川の見学に出かけました。稲生川を管理している水土里ネット稲生川（稲生川土地改良区）の方が説明してくださいました。



稲生川の水は、十和田市の法量地区を流れている奥入瀬川から取り入れています。川に大きな石を積み上げて、川の水面を高くして水を取り入れました。今は、水門をつけて、取り入れる水の量を調節できるようになっています。



「本当に奥入瀬川から水を取り入れているね。向こうには、『南部土方衆』が苦労して掘ったトンネルがあるよ。」



④ 山神の石碑, 金毘羅山の石碑



⑤ 巫女塚



「見学してみて、工事の大変さをたしかめることができたね。」



「あれ？稲生川が上から流れてくる別の川とひとつになっているよ。」



「どうして稲生川のほかに、用水路がもう一本あるのかな。」



⑥ 京ノ館



⑦ 二つの用水路の合流地点

はやとさんたちは、見学の最後に出てきた新たなぎもんについて、もう一度調べることにしました。

～豆知識～ 南部藩の殿様だった利剛公が 1860 年に三本木に来た時に、用水路に「稲生川」、そこにかかる橋に「稲生橋」、新しくできた町に「稲生町」という名前をつけてくれました。また、稲生川の水ではじめて米作りをしたところには、「初田」という地名がつき、現在でもバス停に名前が残っています。



「初田」のバス停は、大学通りにあるぞ。見つけれられるじゃろうか？

見学に行くときは…

- ・説明する人の話をしっかり聞く。
- ・デジタルカメラなどを使って、現地の写真をとる。
- ・屋外での見学は、特に安全に十分注意する。
- ・バスなどを使う場合は、公共の場でのルールやマナーを守る。

年	できごと
1855	稲生川をつくる許しが出る。鞍出山トンネルの工事が始まる。
1856	鞍出山トンネルが開通し、山神の石碑ができる。天狗山トンネルの工事が始まる。
1857	天狗山トンネルが開通する。京ノ館の深掘工事が始まる。
1858	巫女塚の工事がさかんになる。京ノ館の深掘が完成する。
1859	稲生川（熊ノ沢～三本木間）が完成する。
1860	稲生橋が完成する。 新渡戸傳の長男、十次郎が三本木原の都市計画をたて、『三本木平開業之記』を発表する。
1866	十次郎が第二次上水（二本目の用水路）を計画し、トンネルを掘らせ始める。
1867	十次郎が亡くなる。
1869	開拓工事が中断した。
1966	二本目の用水路をふくむ、三本木原の開拓事業が完成した。

2年表②「稲生川と二本目の用水路」



「工事のど中で亡くなってしまふなんて、くやしかっただつたらうね。」



「工事が中断したのに、二本目の用水路が完成したのはなぜだろう。」



「きっとだれかが、十次郎の思いを受けついたのではないかな。」



3 新渡戸十次郎の像

はやとさんたちは、二本目の用水路について調べていくうちに、十次郎のことやどうやって新しい用水路が完成したのかをぎもんに思うようになりました。そこで、もう一度、樋口さんにお話を聞きに行くことにしました。

調べる

十次郎の思いは、だれに、どのように引きつがれたのでしょうか。

ごとは

開拓

山林やあれ地を切り開いて、田や畑、家、道路などをつくること。



1 「かぎの手」型の防風林

年	できごと
1857	・近江（現在の滋賀県）の商人だった吉野屋太助が呉服店をはじめる。
1858	・和泉屋銀蔵が酒屋をはじめる。 ・江渡屋忠兵衛が麴屋をはじめる。 ※移り住む人が多くなる。
1860	・南部藩の殿様、利剛公が町や用水路を見に来る。
1861	・京都から瀬戸物の職人が来る。 ・養蚕のやり方が広まる。 ・江戸から大軽業（サーカス）が来て、相坂の河原に1万人が集まる。
1862	・加賀の皮細工職人、八兵衛が来る。 ・町役人などがおかれる。 ・毎月6日、16日、26日に市が開かれる。
1863	・馬の市がはじまる。 ・旅館8けん、家約300けんになる。
1865	・稲荷神社が現在の場所にできる。

（十和田市史等より作成）

2 年表③「まちができるまで」

引きつがれた開拓工事

樋口さんはまず、十次郎が二本目の用水路の他にも、計画していたことがあるとお話をしてくださいました。



稲生川にくわしい樋口さんの話

稲生川の工事が完成に近づくころ、傳の長男・十次郎は三本木原にまちをつくる計画をたて、まちづくりにとりかかりました。十次郎のまちづくりを見た傳は「なかなかいい。」と、ほめてくれたそうです。

十次郎のまちづくりの計画は、

- 1 京都をまねて、ごばんの目のようにする。
- 2 はば約14mの本通りを通す。
- 3 その他の通りは、はば約11mにする。
- 4 用水と防火のために水路を通す。
- 5 風を防ぐために、まちのまわりに土手をつくり、木を植える。などがありました。



「今の十和田市のまちなみは、十次郎がたてた計画がもとになっているんだね。」



「この時の計画があったから、十和田市には、防風林が多いんだ。」



「用水路をつくるだけでなく、そこに住む人々のことを考えて、まちづくりをしようとしたんだね。」


樋口さんはさらに、二本目の用水路がどうやって完成したのかを調べるための資料をくださいました。

年	できごと	年	できごと
1867	十次郎，第二次上水の計画にとりかかる。	1937	三本木原を国のお金で開拓することが決まった。 ※水野陳好は，379 回も国や県にお願いした。
1869	開拓工事が中断した。	1938	国による工事が始まった。
1870	傳，開拓工事を国で行うように明治政府にうったえた。	1943	国の工事によって，新しい用水路が完成した。
1884	藤田重明を中心に，三本木原を開拓する会社がつくられた。	1946	戦争で中断していた国の工事がふたたび始まった。
1887	こわれていた稲生川を修理して，元通りに直した。	1957	稲生川の改良工事が始まった。
1890	渋沢栄一が三本木原に渋沢農場を開いた。	1963	国の三本木原開拓建設事業が完成した。
1894	三本木原を開拓する会社が，株式会社になった。	1966	国，県，土地改良区の開拓事業が完成した。
1921	三本木原開拓を国に進めてもらうための運動が始まった。	1978	国営相坂川左岸農業水利事業が始まった。
1928	水野陳好が国に何度もはたらきかけた。	2007	国営相坂川左岸農業水利事業が終了した。

3年表④「うけつがれる開拓工事」


はやとさんたちは，樋口さんからいただいた年表を見て，わかったことや気づいたことについて話し合いました。





 「開墾の願いを何度もして，最後は国が開拓を完成させたんだね。」

みずの のぶよし
水野 陳好

1895（明治28年），現在の石川県白山市の大きな農家に生まれました。1920（大正9年），当時の三本木町（現在の十和田市）にあった渋沢農場の場長になりました。新渡戸傳の三本木原開拓の願いをかなえ，地域を発展させようと情熱をもやしました。十和田市初代市長で農業のさかんな十和田市のもとをつくりました。十和田市名誉市民。

 「そのために_____さんは，_____回も国や県にお願いしたそうよ。すごいわ。」

 「三本木原の人々のことを考えて，行動することを傳の時代からリレーみたいにつないできたんだね。」

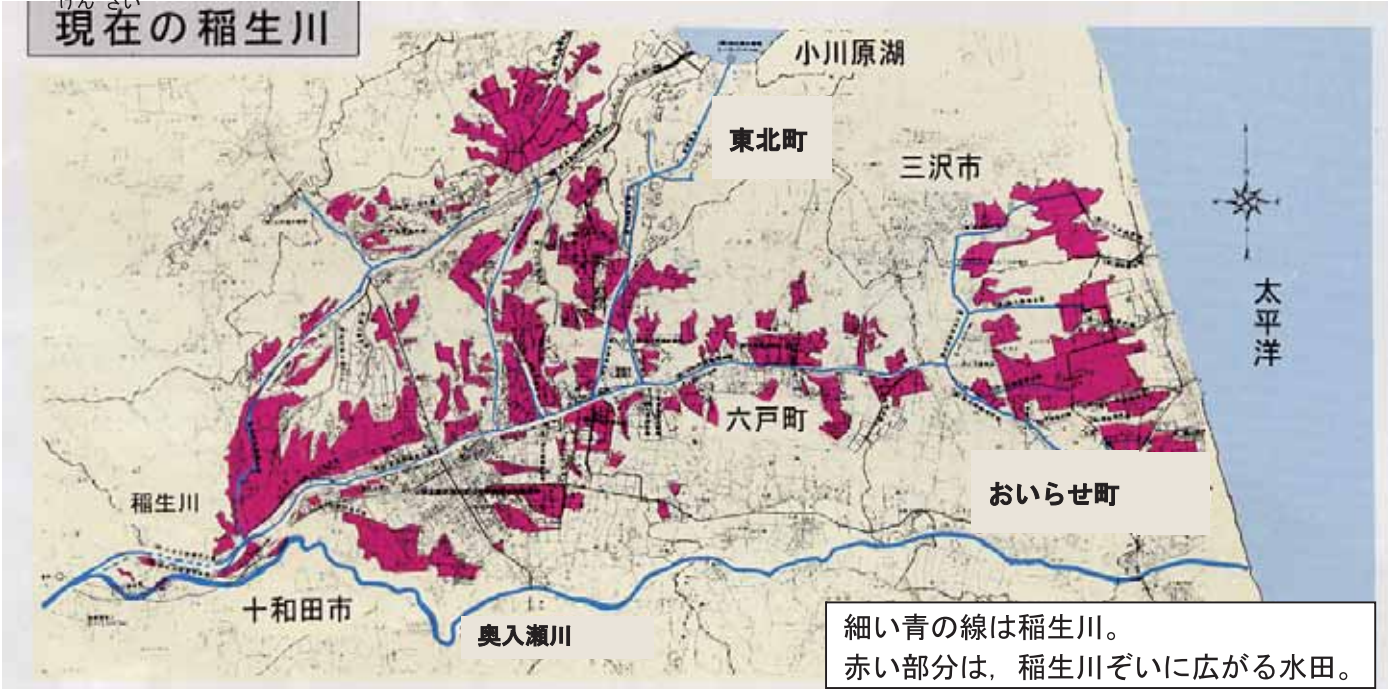
 「今のわたしたちの生活は，新渡戸親子や水野さんをはじめ，いろいろな人の努力によるものだということがわかったわ。」

ことば

かいこん
開墾

山林やあれ地を切り開いて，農業のできる田や畑にすること。

現在の稲生川



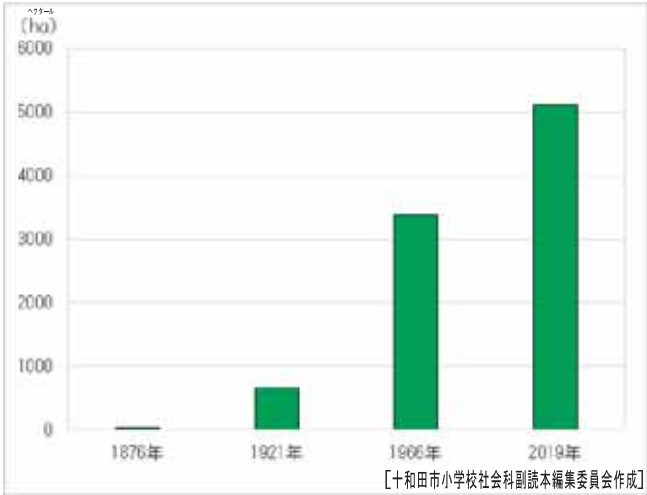
細い青の線は稲生川。
赤い部分は、稲生川ぞいに広がる水田。

調べる 🔍

稲生川がつくられてから、
人々のくらしはどのように
変わったのでしょうか。

かんせい いなおいがわ じっげん かいたく
完成した稲生川，実現した三本木原開拓

はやとさんたちは、稲生川ができてから、人々のくらしがどのように変わったのか、調べました。



「今は、稲生川にそって水田が広がっているから、たくさんお米がとれるね。」



「前のページの年表と左のグラフから、
_____と
_____ということがわかるね。」

1 三本木原の水田の広がり



「三本木原に住んでいた昔の人たちの願いがようやくかなったんだね。稲生川の水で米づくりができるようになって、くらしも豊かになったんだね。」

まとめる

稲生川の学習のまとめ
をしましょう。

先人のくふうや苦勞をまとめよう

はやとさんたちは、稲生川と三本木原開拓の学習を終えて、わかったことや考えたことをまとめることにしました。



「新渡戸傳たちは土地の高さを測量したり，手作業でトンネルを掘ったりしながら，稲生川を完成させたんだね。」



「新渡戸傳，十次郎，水野陳好さん，国や県が，長い年月をかけて，三本木原を米づくりの産地にしたことを知って，ありがたいと思ったわ。」



「稲生川ができて，町が発展してきたことがわかったよ。そのおかげで，人々が十和田市でくらすことができるようになったことがあらためてわかったよ。」



「稲生川ができてから，人々の生活が豊かになったということがわかったわ。その豊かな生活や稲生川を守るために，私にも何かできることがあるんじゃないかな。」

水土里ネット稲生川の方の話



水土里ネット稲生川は，新渡戸傳やその意志を受けついだ人たちがつくった稲生川やそのまわりの小さな用水路を管理しているところです。

毎日パトロールをしたり，水の量を調整したりしていますが，最近では舗装された道路がふえ，雨水が用水路に流れこみやすくなったため，用水路から水があふれてしまうことも多くなりました。また，用水路に大きなごみをすてる人も少なくありません。

大切な稲生川をこれからもわたしたちの手で，しっかりと守り，受けついでいきましょう。

学習したことをまとめてみよう

- ・学習した人物(新渡戸傳・十次郎，水野陳好)に手紙を書く。
- ・新聞にまとめ，友達と読み合う。
- ・三本木原開拓の紙しばいをつくり，友だちや他の学年に読み聞かせる。

など，くふうしてまとめてみるのじゃ。

